

令和6年度 合志市総合教育会議 会議録（要旨）

- 1 会議期日 令和6年11月5日(火)
午後1時30分～午後2時50分
- 2 会議場所 合志市役所 2階庁議室
- 3 出席委員 荒木 義行市長 中島 栄治教育長 高本 孝一委員
坂田 由美子委員 林田 新也委員 (5名)
- 4 欠席委員 鷹木 愛委員
- 5 職務のために出席した者

教育部	岩男 竜彦部長
学校教育課	渕上 佳宏教育審議員
	西 和佳子指導主事
	末永 舞課長
	歌野 雅文総務施設班課長補佐
	吉岡 敏夫学校給食班課長補佐
生涯学習課	牧野 淳一課長
	渡辺 良輔スポーツ振興班 課長補佐
人権啓発教育課	田中 政吉課長
市長公室	松田 勝室長
企画課	佐藤 美和課長
	池田 聡審議員
	山口 直美企画広報班課長補佐
	八浪 生幸企画広報班主幹
総務部財政課	上村 祐一郎課長
- 6 会議の公開・非公開の別 公開
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議内容

※開会あいさつ

【荒木市長】

皆さんこんにちは。本日は合志市総合教育会議ということで、皆様方には大変お忙しい中
ご出席いただきまして厚く御礼を申し上げます。

合志市は隣の菊陽町の半導体の工場に合わせて合志市また周辺を含めて、今大きな期待
と地元の皆様方には、それに対する渋滞等をはじめ、課題も多く述べられています。そうい

った中で、今私どもが市民の方にご理解をいただくための作業にかかっているわけですが、人が増えることによってこどもたちもおかげさまで増えておりますが、それで教育行政、環境行政がそれぞれやるべきこともたくさん出てきております。

市長部局だけでご判断をさせていただくということには無理がありますので、現場の皆様方のご意見、または保護者の方々のいろんな要望、こういったものにしっかりと対応していかないといけないということで、この合志市総合教育会議という形で議論をしていただくことになります。

今年に入ってからですが、台湾の方々からの要請がたくさん増えてまいりまして、当初、合志市に対して熊本県からの説明は、義務教育に、台湾から来られた方のご支援をすぐお願いするということにはならないと、あくまでも熊本市、菊陽町を中心とした今現有の大学や教育機関、こちらの方で受け入れをします。またインターナショナルスクール等も利用してということでありましたが、今私どもに相談されている方々は、義務教育に入れないのであれば、それに代わるべき施設を造ってくれないか、という要望の声も大きくなってきています。義務教育に入れないって言うだけではなく、実際受け入れた場合にそれだけのスタッフが準備できるのかという、現実的な話も含めて、国の支援、そして熊本県が義務教育といえども全面にでて、一緒に話をしてほしい、ということで知事の方にも伝えているところでございます。

合志市に住まいを持ちたいというご相談がきておりますので、今回は議題として提案をしていますが、今後どうなるだろうなというふうに私も心配していますけど、今日は挙げられた五つの議題に対してですね、承ることになりますので、将来的にはまだまだ環境が変わっていくというふうに片方では覚えておいていただければと思います。長くなりましたが、早速会議の方をはじめていきたいと思います。

・議 事

議題（１）児童・生徒の増加に伴う施設整備について

【事務局説明（学校教育課長）】

【荒木市長】

全体育館をこの方式で行うということで計画しているという認識でよいか。

【事務局回答（学校教育課長）】

スポットクーラーが効果的と考えているため、まずは当初予定の３校から導入することを考えている。費用も安価であるため、他の体育館もスポットクーラーでいきたいと考えている。

【荒木市長】

熱中症の対策方法については、教育委員会に任せることになるが、他の体育館は何年ごろに計画されているのかという関心が高くなると思うので、対策法と同時に計画もセットでお示しをしないといけない。

【高本委員】

八代市を視察にいかれたということですが、導入したばかりで、数年後の耐用年数などまだ不明なところもあると思う。その段階で、全部これでいこうと計画されていいのかなという不安感がある。

また、各避難所を優先的にされると思うが、保護者からすると自分のこどもの体育館がいつ導入されるのかという関心が高い。防災センターが近くにない、体育館の空調導入の順番が後になってしまうとお年寄りが夏に避難するときなどの不安感もあると思うので、そういったことも含めて計画を立ててほしい。

【荒木市長】

停電時にはどうなるのか。

【事務局回答（学校教育課総務施設班課長補佐）】

八代市の場合、避難所にスポットクーラーを導入しておりまして、停電時には非常用電源をレンタルして使用する計画になっているため、本市も参考にしながら検討していきたい。

【荒木市長】

いつから導入になるのか。

【事務局回答（教育部長）】

R 6 年度に設計委託を行い R 7 年度から導入を予定している。年次計画として教育委員会としては例えば避難所の位置づけや、3 ヶ年計画を立てていたが、先ほど説明しました通り、当初の想定費用よりだいぶ安価になるようであれば、市の財政状況を見ながら前倒しができないかと考えているところですが、まだ詳細については決定しているわけではありません。

議題（２）ICTを活用した教育について

【事務局説明（学校教育課長）】

【林田委員】

他の自治体、特に熊本市は ipad を使用して、大津町は chrome をいれていると思うが、今後どういう方針でされる予定か参考に教えてほしい。

【事務局回答（学校教育課長）】

熊本市は不明だが、大津町は引き続き chrome を利用する方向で検討していると聞いています。

【荒木市長】

費用は機器のみの費用になるのか。

【事務局回答（学校教育課長）】

キーボードやタッチペン、フィルム、オプションとしてソフトなども費用に含めています。

【荒木市長】

財源についてはどうなっているか。

【事務局回答（学校教育課総務施設班課長補佐）】

財源については国の補助ではあるが、県に基金を積み立てて、そちらの方から各市町村に支出するという形になる。県の共同調達という形になり、補助率などは示しがあっています。

議題（３）学校給食施設の計画的な整備に関することについて

【事務局説明（学校教育課長）】

【荒木市長】

これは決定というよりも現時点での方針案としてよいか。

【事務局回答（学校教育課学校給食班課長補佐）】

１センターを１敷地でということは決定しております。最大 6,000 食が作れる能力のある施設になる。合志のセンターでは現在 2,700 食提供していますが、献立数は同じようなかたちで、１献立でいきたいと考えています。

また、安全安心ということが最大の目標で掲げてやっていきたいと思っていまして、具体的な例を挙げると、合志のセンターで今でもやっているのが、カレーであったらルーの辛さを小学生用と中学生用とで変えておりますし、できあいのものではなく、なるべく

手作りのもので提供していきたいと考えています。センターとしての規模は合志のセンターの2倍近くになるが、やり方は同じようなかたちで、安全安心が担保されたものを提供していきたいです。

【荒木市長】

アレルギー除去食の提供についてはどうなるのか。

【事務局回答（学校教育課学校給食班課長補佐）】

アレルギー除去食の提供場所が現在8ヶ所あり、現在120食をそれぞれの現場で対応し、今はそれぞれのこどもに合わせたメニューという形でやっています。施設が8ヶ所から3つに集約するため、アレルギーを使用していない安全安心な統一されたメニューということで考えています。

【高本委員】

他地域では、給食センターから配送まで1時間かかる地域もあり、麺類などは伸びきっていたりすると聞いているが、合志市は10分～15分で配送ができるので、そういう心配はないのかなと思う。

また、他地域で除去食について、配送まではうまくいったけど、ちがうものを配膳し、事故があったところもあったので、食数も多いため、管理についてはしっかりとってほしい。

議題（4）社会体育施設の計画的な整備に関することについて

【事務局説明（生涯学習課長）】

【荒木市長】

市民の方々に一番迷惑がかかっているので、1日でも早く粛々と進めていきたい。

議題（5）中学校部活動の社会体育移行について

【事務局説明（生涯学習課長）】

【坂田委員】

国が示している土日だけの地域指導者の協力については、生徒と指導者、指導者と普段平日指導されている学校の先生をどうつなげるかが一番の問題という話が現場ではあがって

います。国がいつているまずは土日の指導者の確保をしてほしいというよりも、平日も地域の指導者が入って、先生や生徒とコミュニケーションをとる。コミュニケーションをとらないと、土日だけ教えることはできないかなと思う。先生方の中でもぜひ部活動の指導をしたいと思っている先生方もいらっしゃると思うので、そういった先生方にはぜひ指導をしていただきたい。そのためには学校の先生方に対する手当、対応を整えていきたいなと、謝金など、県ができないのであれば、合志市が独自に何か考えて手立てをしていただけないかなと思います。

【中島教育長】

本市では全部で部活動は70ぐらいが活動しておりまして、国や県の方針は土日だけでもまず移行しなさいと、準備が終わったところから平日もしなさいとなっているが、目標を掲げているだけで、まだ具体的なことがあがっておりません。一つ回答がありましたのが、土日に先生方がもしするとしたら兼業兼職で担当してもよい、という回答だけがありました。ただ、兼業兼職となると保険の問題はどうなるのかと、怪我したときに公務災害になるのか、ならないのか、ということを考えると非常に簡単ではありません。熊本市も少し前からされていまして、本年度の熊本市教育委員会としては、しばらく見送ると回答されています。本市も検討委員会にあげてもらっていますので、今のようなご意見や資料を検討委員に示して合志市の部活動のあり方というのを今後明確にしていきたいと思います。

最も心配していますのは、今年、高知県の教職員採用試験に採用された方の7割が辞退されていると、先生たちのなり手不足というのは本格的になりました。ですから、合志市の先生方の働く環境というのもどこかで整えていかないと、臨採の先生方が3割くらいいらっしゃいます、そういった臨採の先生方を確保するという意味でもしっかりと考えていきたい。

【高本委員】

私が最初に教員になったときに、職員会議の中で部活動担当の割り当てがあった。全然したことない種目の担当をさせられて、全然したことないですって、誰でも最初はしたことない、自分で勉強してしないと、それが当然と思ってあちこちで勉強して、こどもたちとやってきた。小学校が一足先に社会体育に移行して、菊池郡市で私がやっていた種目が女子20チーム、男子10チーム、全部で30チームくらいあったのですが、移行したとたん、女子が8チーム、男子が4チームくらいに激減しました。なくなった小学校の生徒は何をしていたかという、保護者の支援があるところは、近くのクラブチームに送り迎えをして、そこですることができているのですが、時間的な余裕がないという保護者のところは何もすることがないのですよね。自分のやりたいこともやれないから自分にはそういう能力があるかもわからない。というところです。

九州大会とか全国大会とかいったのですが、練習試合も含めて対戦成績を書かないといけなくて、私が 33 勝何敗と書いていたが、他のチームを見るとですね、120 何勝 30 敗と、100 や 200 近くの試合とかできるのですかって聞いてみた。他の県、市は、ほとんど部活動じゃなかった。全国で部活をしているのは 4~5 チームくらいだった。だから小学校の部活動が全国的に社会体育に移行したとしても、全然影響なかった。今度の場合、中学校の場合は違います。中体連というのは全国でありますので、それが社会体育に移っていくっていうところは、やっぱり大きいと思う。小学校で、社会体育に移ったところで一番の問題点は、指導者です。こどもたちの授業が終わってからとなると 5 時からとか、せいぜい 6 時からで、その時間に合わせて来られる指導者は限られている。だからその指導者を平日も休日も確保するということができるのかな。私も後継者を探して今まで教えていたこどもたちに声をかけて、「来てくれんね」って頼むけど、子育てや仕事でとてもじゃないけどその時間にいけないと言うんですよね。中学校もやっぱり一緒だと思う。先ほど言った 100、200 試合近くしているところは、夜 8 時から 10 時まで平日に大会があると。それから帰って寝て、次の日は普通に学校に行く。中学校だからそっちに近くなっていくのかな。やっぱりやりすぎというのは、でてきますよね。そこを教育委員会としてどう指導していくか、でももう部活じゃないので指導が入るのか、本当にできるのかというところも含めてですね。

それからもう一つあるのは、金銭面ですね、聞けば、県外の遠征がいっぱいあって、月々私達も今、部活動の延長ということで月 2,000 円ずつぐらいの割合で、部費を集めて、指導者もボランティアでさせてもらっているんですけど、よそのクラブチームなんかは、安いところでも 5,000 円、高ければ 1 万円徴収していますっていうところも多いのでそういう経済的な負担、それから必ず送り迎えがいるから、保護者の時間的な余裕等も含めてですね、中学校も、果たしてうまくいくのかなって。なくなった場合に中学校で行き場のなくなったこどもたちは一生懸命勉強してくれりゃいいんですけどね。かといって部活を残しなさいなんて言っても熊本市なんかは、教員が足りない。ましてそこに部活動指導が入ってきたときに、ますます足りない。だから慎重に進めていかないと大変なことになる。

【湧上教育審議員】

先生たちの数の不足というのは、もう深刻です。昨年度少し計算したんですけど、教員 1 人当たりがいったい児童生徒を何人くらい受け持っているのかっていうのを単純に全児童生徒数を全教職員数で割ると、その数値が一番大きいのが、熊本県内で一番大きいのが合志市です。熊本市よりも大きいです。1 人当たり 16 人ぐらい。熊本市は 1 人当たり 15 人ぐらいですね。その上に菊陽町と大津町がくるんですけど、反対に一番少ない五木村だと 2.21 人でみている。教員 1 人が 2 人しかみなくていいということです。そういった面での公平さというのを考えたら、本当は合志市のこどもたちが一番不公平っていうかです

ね、その分教育が効率的に行われているということではあるんですけど。そういった意味では、本当はもうちょっと教員は県費ですので、マンパワーの部分では県とか国の方でしっかり考えてもらわないと。施設とかですね、環境整備はもちろん市でも考えてもらうんでしょうけど、やっぱマンパワーの部分は国とか県で考えてくれているとかなないとどうしようもないというのが正直なところですよ。と言っても、ない袖は振れないみたいな感じで答えが返ってくるのでそこは申し訳ないと思いますが、私の立場からとにかくそういう事情をしっかりと訴えとともに、去年校長だったという立場からすると、そういう事情はですね隠しても仕方ありませんので、保護者にもしっかり学校の内情を明らかにして、そういう状況を保護者にも理解してもらわないと。やっぱり学校とか市がたらい回しをしているというような受け止めにされないように、精一杯やっていて、こういう状況なんだというのを隠すことではないと思いますので、そういう努力も現場の校長と話をしながらどんどん情報公開していきましょうみたいな話は今後もしていこうかなと思っています。

【荒木市長】

現場であったり、保護者であったり、地域であったり、懸念材料であったり、タイムリーであったりとか、それを総合教育会議ですね、方針を決めることによって、説得力もでてくる。行政も方針が決まれば、それに沿ってどういう環境を整備していくかということになる。どうぞこの会議を利用させていただいて、それぞれが持っているいろんな課題を解決していくような会議をしていきたいと思っています。

意見を貯めといていただいてもいいし、随時吐き出してもらってもいいと思いますけど、そういう意味では一方通行にならないように、市長部局から一方的に議題を出すっていうような話にならないように、私たちも注意していきますので、また教育委員会の方からあれば出していただきたいと思います。